

「ごま塩の平穏な一日（予定）」

朝。ヨルファミリア本部。第9席・ごま塩は思った。今日は
何も無い。任務もない。訓練も午後から。つまり——

「今日は平和に過ごせそうゴマ〜♪」

コーヒーを淹れ、大食堂の一角にあるソファへ向かう。完璧
な休日。だった。

「ごま塩！！」

「嫌な予感ゴマ」

第10席・なっちが走ってきた。

「見て！」

「見たくないゴマ」

「まだ何も見せてない！」

「なっちが勢いよく来た時点で、ろくなことじゃないゴマ」



「失礼な！」

なっちは背中から何かを取り出した。謎のボタン。赤い。デカイ。そして中央には、

『押すな』

と書いてある。

「……………」

「……………」

「なっち」

「はい」

「それどこで拾ったゴマ？」

「廊下」

「戻してこいゴマ」

「でも押すなって書いてある」

「だから戻してこいって言ってるゴマ」



「押すなって言われると——」

「やめろゴマ」

「押したく——」

「やめろゴマ」

「なるよね！」

ポチッ。

「なっちいいいいい！！！」

ドゴオオオオン！！本部のどこから爆発音。

「……………」

「……………」

ごま塩がゆっくり振り返る。煙。

「……何したゴマ？」

「分かんない」



「なんで押したゴマ！？」

「好奇心」

「好奇心で本部爆破するなゴマ！！」

十分後。幸い、爆発したのは訓練用のスモーク装置だった。

「よかった～」

「よくないゴマ」

ごま塩は雑巾を持って床を掃除していた。

「なんで僕まで掃除してるゴマ……」

「一緒にいたから？」

「連帯責任おかしいゴマ！」

「ごま塩」

「何ゴマ」



「頑張って」

「お前も掃除するゴマ！！」

昼。ごま塩は大食堂へ向かった。

「今度こそ平和に昼飯ゴマ」

今日のメニュー。カレー。

「いただきますゴマ♪」

ぱくっ。

「うまいゴ——」

「ごま塩！」

「……………」

背後から聞こえる声。ごま塩は振り返らない。

「ごま塩？」



「……………」

「聞こえてる？」

「僕には何も聞こえないゴマ」

なっちが正面へ回り込む。

「ねえ」

「何ゴマ……」

「一口ちょうだい」

「自分のあるゴマ」

「もう食べた」

「早すぎるゴマ!？」

なっちの皿を見る。綺麗。一粒も残っていない。

「一口だけ!」

「絶対一口じゃないゴマ」



「一口！」

「……仕方ないゴマ」

ごま塩が皿を差し出す。

「一口だけゴマよ」

「ありがと！」

なっちがスプーンを構える。そして――

ごそっ。

カレーの約三分の一が消えた。

「……………」

「……………」

「なっち」

「はい」

「それは一口って言わないゴマ」



「私の一口」

「口デカすぎゴマァァァ！！」

午後。室内訓練場。

「今日は僕となっちで軽い模擬戦らしいゴマ」

「よろしく！」

「まあ、第9席として先輩の威厳を見せるゴマ」

「ごま塩」

「何ゴマ？」

「後ろ」

「その手には引っかからないゴ——」

「危ない！」

「え？」



振り返る。誰もいない。

「……………」

次の瞬間。ぽすっ。なっちの模擬武器がごま塩の背中に当たった。

「一本！」

「卑怯ゴマァァァ！！」

「戦場では油断した方が悪い！」

「急にもっともらしいこと言うなゴマ！」

「もう一本！」

「待つゴマ！」

なっちが突撃。

「うおおおお！」

「速い速い速いゴマ！！」

ごま塩、逃走。なっち、追跡。



「戦えー！」

「今日はなんか嫌な予感するゴマ！」

「いつも言ってるじゃん！」

「誰のせいゴマ！？」

そのまま二人は訓練場を三周した。

夜。ボロボロになったごま塩が大食堂の一角にあるソファへ沈んでいた。

「……………」

ヨルが通りかかる。

「ごま塩？」

「ヨル…………」

「どうしたの、その顔」



「今日一日で寿命が三年くらい縮んだゴマ……」

「何があったの？」

ごま塩が答えようとする。その時、遠くから——

「ごま塩——！！」

「……………」

ごま塩の顔から表情が消えた。なっちが走ってくる。

「見て！ また変なの拾った！」

「……………」

今度は黄色いレバー。そこには、

『絶対に引くな』

と書いてあった。

「ヨル」

「うん」



「僕、部屋に戻っていいゴマ？」

「いいよ」

「ありがとうゴマ」

ごま塩が立ち上がる。

「ごま塩待つて！」

「待たないゴマ」

「これ一緒に引こうよ！」

「絶対嫌ゴマ」

「じゃあ私が——」

「やめろゴマ」

「引く！」

「やめろゴマ！！」

ガコン。一秒。二秒。三秒。天井から大量の水が降ってきた。



ザバァァァァァ！！

「……………」

「……………」

びしょ濡れの二人。なっちが笑う。

「あはははは！」

「……………」

「ごま塩、髪ぺったんこ！」

「……………」

「ごま塩？」

ぷるぷる。ごま塩が震える。そして――

「なっちいいいいいい！！！」

「逃げろー！！」

「今日という今日は許さないゴマァァァ！！」



廊下を爆走する二人。それを見送ったヨルは呟いた。

「……仲良いなあ」

翌日。朝。ごま塩は決意していた。

「今日は絶対になっちに近づかないゴマ」

ガチャ。部屋のドアを開ける。目の前になっち。

「おはよ！」

「……………」

「ごま塩？」

ボタン。

ドアを閉める。

「なんで閉めるの！？」

「今日は臨時休業ゴマ！！」

「何の！？」



こうして今日も、ヨルファミリア第9席・第10席コンビの一日は始まる。なお、ごま塩の平穏な休日は――

なっち加入以来、一度も確認されていない。

